

北海道みんなの日条例を踏まえた講演会

北海道釧路明輝高等学校

文責 教頭 西川 勤

講演会を実施しました

本年3月に「北海道みんなの日条例」が公布されました。道民が、本道のこれまでの歴史や自然、文化、産業等についての理解と関心を深め、本道の価値を改めて認識し、道民であることを誇りに思う心を育むことにより、道民が一体となってより豊かな北海道を築いていくことを主な趣旨とした本条例の趣旨は意義深いものだと思います。こうした条例の趣旨やふるさと北海道への誇りと愛着を育むことの大切さを踏まえ、本校では、全校生徒を対象に、7月24日（月）に講演会を実施しました。本校の学校設定科目「アイヌ学」を担当されている長根和人様を講師にお迎えし、「松浦武四郎とアイヌ民族、そして北海道」と題して講演をいただきました。



講演では、松浦武四郎の生誕や北海道探検（計13年間）の足跡、釧路との関わりや北海道という名前の由来（武四郎の提案は「北加伊道（加伊はアイヌ語で「この地に生まれた者、自分たちの住むところ」の意））、武四郎とアイヌ民族との深い関わり等に関する興味深い話がたくさんありました。生徒は真剣に、ふるさと北海道への思いを新たにしていました。平成30年には北海道開基150年となることから、本条例の趣旨を大切にしていきたいことが必要なことを学びました。最後に生徒を代表し、「アイヌ学」を選択している本間健太くん（3年次）が謝辞を述べ、「今日学んだことをしっかり認識し、北海道民としての誇りを持ってこれから先の将来もしっかり歩みたい」と決意表明しました。

講演に参加した生徒及び教員の感想は次のとおりです。

感想 はじめて知ることがたくさんありました。

- 松浦武四郎という人物を今日始めて知りました。松浦さんの困難に負けない力強さを見習いたいです。また、これまで何げなく北海道に住んできましたが、講演後は北海道への捉え方が変わり、もっと北海道について勉強したくなりました。北海道に生まれてよかったと思う。（1年次男子）
- 私は今、幸せに暮らしています。その理由は、松浦武四郎さんの血のにじむような努力や北海道の先住民であるアイヌの方たちのおかげだと知りました。私自身これから色々な人と出会っていくと思いますが、偏見を持たず、お互いの文化を尊重できるような人間になりたいと思います。（3年次女子）
- 生まれも、育ちも北海道ですが、松浦武四郎の足跡に触れる機会がなかったので、北海道民として非常によい時間を過ごさせていただきました。松浦氏の行動力や他者を思いやる心は現代社会に生きる私たちにも通じるものがあります。講演を通して、北海道の懐の深さや今後の可能性を感じました。（教員）

講演会を終了して

今回の講演会は、釧路市にもゆかりが深いとされる松浦武四郎氏とアイヌの人々との関わりなどについてを中心に、お話しをいただきました。はじめて知ることも多くあり、生徒にとっては有意義な講演会となりました。

釧路市や道東地方には、優れた自然や産業、文化等がたくさんありますので、こうしたことをしっかりと学んでいくことが大切であると改めて認識しました。

今後においても、地域の様々なことを学ぶ中で、地域のことをより一層理解し、学びの幅を広げていきたいと思っています。

